



第 68 回自治体学校 in 大阪 No.3

現地実行委員会ニュース

発行: 第 68 回自治体学校 in 大阪 現地実行委員会準備会 2026 年 5 月 11 日発行
連絡先: 大阪自治体問題研究所 〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-13-15 大阪グリーン会館 5 階
電話 06-6354-7220 FAX 06-6354-7228 e-mail: oskjichi@oskjichi.or.jp

5月1日からWEBでの申し込み開始!

「第68回自治体学校 in おおさか」は、いよいよ2か月後に開催です。リーフレットも完成しました。ぜひ、参加を呼びかけ、広げてください。

申し込みは、リーフレットのQRコードや自治体問題研究所のHPやXからお願いします。申し込み方法がわからない場合は、自治体問題研究所へ直接お問い合わせください。



前号に続き分科会を紹介します。

魅力いっぱい! 分科会のご紹介③

第3分科会:「持続可能な食と農・中小企業振興と自治体の役割」

魅力の第1は、助言者が、岡田知弘先生ということです。第2は、令和の米騒動は何だったのか、今、どうなっているのか、有機農業や産直運動、学校給食の地産地消など自治体の果たすべき役割を含め、学び交流できる機会です。第3は、最賃引き上げやホルムズ危機の影響も含め、中小企業振興の上で、自治体の果たすべき役割を考える機会となります。中小企業振興条例を作り、生かしていく、公契約条例や最賃引き上げに伴う直接支援制度など、各地の状況を参加者の皆さんと交流していきます。



魅力いっぱい! 分科会のご紹介④

分科会4:ガバクラ移行の課題に基づくDX・AI人材育成と展望

システム標準化に伴うガバメントクラウド移行では、職員負担や財政負担の軽減という、本来の目的とは乖離したという状況が浮かび上がっています。

裏を返せば、業務とデジタル化の複合的な知見がなければ、この複雑な課題に対応することが難しくなっていると言えます。

本分科会では、まず、デジタル化に関する知識や問題意識を、参加者の共通認識とできるように、午前中は講義を中心とした運営の予定です。

午後は、講義を踏まえて、現場の課題を共有しつつ、現状の課題をいかに乗り越え、前向きに発展させるかという視点で、ワークショップ形式で議論する予定です。AIワークの手法なども取り入れる予定にしています。自治体におけるデジタル化のあり方について一緒に考えましょう。みなさんのご参加をお待ちしています。

魅力いっぱい！分科会のご紹介⑤

第8分科会：交通権が保障された地域交通で誰もが安心できる地域を

全国で路線バスや鉄道の廃止が相次いでいます。「病院、買い物、学校、仕事にも行けない。これでは住めなくなる」との悲痛な声が聞こえてきます。民間事業者任せでは益々地域が衰退します。そんな中でも、全国には知恵を出し、要求を掲げ、「住みよいまちづくり」を目指して頑張っている事例がたくさんあります。

当分科会では、助言者の可児紀夫先生（愛知大学）のお話と3本のレポート報告（①金剛バスの全面撤退から、②利用しやすいコミバスの運行、③福祉有償運送）を予定しています。フロアからの報告、発言も期待します。互いに学び、展望を見つけられたらと思います。



魅力いっぱい！分科会のご紹介⑥

分科会9:水道事業の広域化、現状と課題

昨年も水道広域化について取り上げ、各地の事例について議論し、交流しました。今回の自治体学校・水分科会では近畿の水道広域化について議論します

午前中は 太田 正 作新大学名誉教授から「上下水道事業の広域化」について講義いただき、午後からは各地の報告です。

民営化は各地の住民運動で止めてきました。が、国は都道府県主導で広域化を推進していません。

広域化計画には住民が大切にしてきた自己水源を放棄し、ダムからの水に切り替えさせる例が後を絶ちません。令和6年度には水道の所管が厚労省から国交省に移管されました。そしてダムは国交省の管轄です。

本分科会では、各分野から報告、問題提起をいただくとともに、持続可能な水道のあり方について、みなさんと一緒に考える場として開催します。



魅力いっぱい！分科会のご紹介⑦

現地分科会：多文化共生の歴史とまちのあり方を考える

大阪生野コリアタウンを舞台に、差別の歴史と多文化共生の未来を見つめるフィールドワークとフォーラムです。コリアタウン歴史資料館、コリアタウンを見学し、統廃合によって廃校になった小学校跡地を活用した複合施設（ikuno パーク）にて、異なる文化や背景を持つ人々が共に暮らしてきた歩みを学びながら、地域に息づく食、教育など多彩な事業を体感できます。交流や対話を通じて、新たな気づきやつながりが生まれ、これからの共生社会のあり方を考えるきっかけとなるでしょう。

歴史と現在が交差するこのまちで、共に未来を描いてみませんか。

